

対馬の鳥類（そのⅠ）

山口 鉄 男・*鴨 川 誠

（昭和46年9月30日受理）

Birds on the Tsushima Islands, Nagasaki Prefecture

Tetsuo YAMAGUCHI and Makoto KAMOGAWA

Abstract

The avifauna of Tsushima Islands consists of 217 species belonging to 49 families. In this enumeration, six species are included, which are not recorded recently. The immigration and nesting seasons are given in the table for each of the enumerated birds. The habitat conditions and other noteworthy facts are also given in the text. In Tsushima Islands, 21 per cent of the birds are resident birds and 77 per cent are migratory ones.

The features of the avifauna can be summarized as follows. (1) Some of the winter birds stay through the summer season in the islands, (2) the Ord. Accipitres abounds as compared with the other regions and (3) there can be seen such rare species as *Pitta brachyura* and *Eurystomus orientalis* abundus.

目	次
I はしがき.....	V 対馬産鳥類目録.....
II 対馬の位置と鳥類の生息環境.....	VI キタタキ盛衰記.....
III 調査地.....	VII むすび.....
IV 調査方法.....	

I はしがき

対馬は日本本土と朝鮮の間に位置し、日本系の動植物と大陸系の動植物が混在し、加えて南方系のもも見られ、生物地理学的に極めて興味が深いところである。そのためここを訪れた各分野の専門家は多い。

鳥類について見ると、

1809 平山 榮は津島紀事を著わし、この中に土産考禽鳥類として33科69種を記録した。

1871 波江元吉、土田兎四雄は対馬鳥類を研究。

* 長崎県立平戸猶興館高校津吉分校

1920 黒田長礼他数氏 同上。

1933 内田清之助，安部幸太 同上。

近年になっては，

1962，6月8日ー16日 キタタキ調査団（白井邦彦，吉川需，加古政夫，梅田輪平，鴨川誠）が，御岳原生林，目保呂，上県町，上対馬町，白岳，竜良山でキタタキを中心に調査。

1963，1月，諸口正輝，齊藤隆夫（日本野鳥の会）は巖原町ー御岳，佐護を中心に著者と共に踏査。

1963，7月，長崎県理科教育協会の対馬採集会，外山三郎，梅田輪平，柿田周造，著者などにより，有明山，白岳，竜良山を調査，柿田はさらに著者と共に御岳，佐護を調査（九州野鳥11号，1964）。

1965，3月，中村澄流（信州大）は有明山，白岳付近でチョウセンエナガの生態調査。

1965，5月29日ー6月4日 蒲谷鶴彦（日本鳥類保護連盟）は御岳，竜良山を調査，シロハラ，ヤイロチョウ，ツシマヒガラなどの囀りを録音（KBC から放送）。御岳での調査には鴨川も同行し，本邦末記録のシロハラの越夏の生態を調査（九州野鳥17号，1965）。

1966，11月，蓮尾嘉彪（山階鳥類研）豊玉村曾で標識調査。

著者のうち山口は数回の渡島調査に過ぎぬが，鴨川は対馬在任中の7ヶ年間この調査に従事した。ここには49科217種を記録したが，この中には文献には見えるが，著者等は直接観察していないもの7種と，（第1表*印），既往のもので現在の目録にのせるのは無理と思われるキタタキ，ガランチョウ，アホウドリ，コウノトリ，トキ，オオハクチョウも含めている。

この調査に御協力いただいた豊玉村の方々，佐護中，乙宮中の生徒諸君，同僚の方々に厚く御礼を申し上げる。

II 対馬の位置と鳥類の生息環境

対馬の北端は，北緯34°44'で，これは大阪の緯度にほぼ等しく，また南端は，これから約08km南にさがって34°05'で，ここは四国の緯度にあたり，日本本土と朝鮮半島の中間に位置する本島は，渡りの季節になると無数の渡り鳥の群れが餌をあさり，また休息したりする場所となる。

山は下県郡では，矢山立（648.5m）が最も高く，有明山（558.2m），竜良山（558.5m），白岳（515.3m），城山（275m）がそれにつづいている。また上県郡では，御岳（457.8m），大星山（347.7m），高野山（351.2m）などがこれに続くが，いずれも高山という程のものはない。このほかは，200m以下の山が多く，それらの山や丘陵が海岸まで迫っていて，平地は極めて少ない。

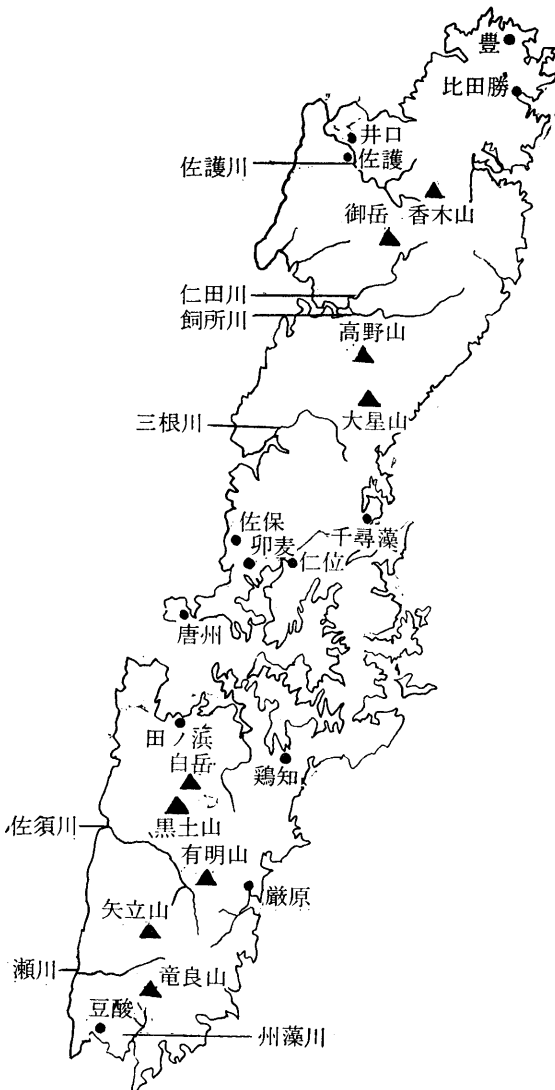
これらの山に生育する植物相は極めて豊富で，本島南部には常緑広葉樹林が発達し，北上するにつれて落葉広葉樹林およびこれらの混交林に移り変わる。しかし，いずれも二次林が大部分で，原生林は少なく，竜良山，有明山，白岳，御岳，天童山，大星山などが原生林として残

存するにすぎない。

常緑広葉樹の優占種はカシ類、シイ類であり、ヤブツバキ、タブノキ、イスノキ、ヤブニッケイ、シャシャンボ、モチノキ、ヒサカキ、クロギなどがつづき、これらの樹種によって、山の景観をつくっている。また落葉広葉樹では、コナラクスギ、ナラなどを優占種とし、ケヤキ、エノキ、ムクノキ、ノグルミ、アズキナシ、リョウブ、クリ、カエデ類がそれらにつづいている。針葉樹では、クロマツ、アカマツ、モミ、チョウセンゴヨウマツなどが、ところどころに見られる。そのほか、最近は、スギ、ヒノキ、マツ類の人工造林が盛んである。そのため、これらの占める割合も、次第に広くなりつつある。これらの地帯は針葉樹林を好むキクイタダキのよい生息環境となる。食餌となるつる植物では、ムベ、サネカズラ、サルナシ、ツル

ウメモドキ、サルトリイバラなどがみられる。これまで述べてきた樹種その他がいろいろな割合で混生し、対馬の植物の景観を特徴づけている。鳥類にとっては、それらの樹種の葉芽、花芽、花、花の蜜及び果実、種子などは、よい餌となる。また、これらに生息する昆虫類やその他の小動物は、これまた彼らの餌となり、豊かな栄養源である。対馬の森林は薪炭林として20～40年毎に伐採されていた。そのため、ある種の鳥類にとっては好都合で、そこには、SAMMALISTO (1957) がいうような **edge effect** があらわれ、特にエンジャク目などでは、顕著である。

次の生息環境は農耕地であるが、これは極めて少なく、対馬の総面積約709Km²に対し、2,386ヘクタールの耕地に過ぎない。水田は、夏から秋までは稲田となるが、そこらは、シギ類、サギ類などのよい生活場となり、またヒクイナの繁殖場ともなる。秋の稔りのころには、スズメをはじめ、旅鳥であるノビタキの大群が飛来して季節を知らせてくれる。ハクセキレイ、キセ



キレイの渡り鳥も立ち寄る。稲の収穫が終わると耕き起こして、麦が作付けされる耕地もあるが、そのままの状態です春を迎える耕地もある。ここには、多くの冬鳥たちが冬を過ごす。例えば、ビンズイ、タヒバリなどがもっとも多いが、他に大形のミヤマガラスも大群集で採餌してまわる。村落付近もまた鳥類のよい集合場所となっている。

次の環境は川、海岸、外洋である。

本島の主な川は、上県郡では仁田川 (6,650m)、佐護川 (4,400m) (川口に砂浜発達)、三根川 (5,900m)、(河口に干潟発達)、仁位川 (3,940m)、(干潟はかなり発達)、曾川 (1,910m)、(川口に干潟発達)、吉田川 (2,330m)、志多賀川 (2,000m) などがあり、溪流にはアカショウビン、ミゾゴイが見られる。

下県郡では洲藻川 (4,370m)、難知川 (4,125m)、佐須川 (4,650m)、瀬川 (3,500m) がある。

先に述べた佐護川の川口近くにはアシ原があり、わずかではあるが川原、干潟、砂浜がみられ、季節によって移水帯鳥類群集が観察できるときもある。カイツブリ、バン、カモ類、シギ類、チドリ類、サギ類、或いはセキレイなどがその例である。沼沢地は本島には広い面積のものではなく、豊玉村和板の川口付近、その他数ヶ所に過ぎず、そこには、オオヨシキリ、コヨシキリなどが生息する。

前述の移水帯よりも海岸の線がきわめて複雑な対馬では、海岸の多くの場所が水辺を好む鳥類の生息に適している。例えば、干潟、砂浜、岩岸、浅岸部、江湾、外洋、海食崖などがみられるが、海岸の岩石の多い浜辺の鳥類の群集は、とくに種類はきわめて制限されていて少ない。しかし、江湾、近海では飛翔型海鳥のカモメ類や遊泳型海鳥のアカエリカイツブリ、アビ、ウミウ、カモ類が季節によって変化はあるが見られる。外洋では、オオミズナギドリを観察することができる。しかし、これまで述べてきた生息環境での移水帯鳥類群集や、黒田長久氏 (1967) のいう内 (淡)、水面鳥類群集及び、外 (塩) 水面鳥類群集についての本島での研究は、全くなされてない。海岸線が複雑で、しかも島嶼が多く、これらの島は、無人の孤島が大部分であるから、この環境の鳥類の調査は興味深いものがある。

Ⅲ 調査地

本島全地域にわたって1961～1967年まで実施した。また1961～1965年までは上県町佐護で、1965～1967年までは豊玉村曾、千尋藻を中心に渡りの継続調査を実施した。

Ⅳ 調査方法

佐護中、乙宮中の生徒、同僚、地域の多くの方々から、へい死鳥、捕獲鳥の提供を受けて同定し、また自身が各地を回って観察、記録をとった。同時に、生態写真、8mm撮影を並行するよう努力した。囀り、地鳴きにも十分注意を払った。

渡り鳥については、その大部分について、前述の一定地域におけるセンサスを約7年間にわたって継続的に行なった。

繁殖時期は7年間に観察した数個体の営巣開始から、巣立ちまでを表わした。

本目録は、日本鳥類目録第4版 (日本鳥学会、1958) に準じ、方言も付記した。

第1表

対馬における鳥類の繁殖期と生息時期 (1961~1967)

		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	初認	終認
目	番号	鳥名														
エ	1	ハシブトガラス														
	2	チョウセンハシブトガラス														
	3	ハシボソガラス														
	4	ミヤマガラス													-61 IX.23	-66 IV.15
	5	カササギ				不					明					
	6	ツシマカケス														
	7	コウライウグイス													-66 VI.26	
	8	スズメ														
	9	シメ													-66 XI.6	-66 IV.27
	10	イカル													-63 II.17	-66 III.2
ジ	11	コイカル													-62 XII.3	-63 III.3
	12	オオカワラヒワ				不					明					
	13	コカワラヒワ														
	14	マヒワ													-67 X.15	-62 IV.4
	15	ウソ													-62 XII.26	-64 II.25
	16	アカウソ				不					明					
	17	アトリ				不					明					
	18	ミヤマホオジロ													-63 X.27	-66 V.9
	19	アオジ													-66 X.25	-63 IV.3
	20	ノジコ													-65 III.3	-63 XII.1
ク	21	イイジマホオジロ														
	22	カシラダカ													-62 XI.14	-65 III.5
	23	クロジ													-63 XI.9	-64 III.1
	24	シロハラホオジロ													-63 XII.18	-64 II.9
	25	コジュリン													-67 III.28	-66 VII.9
	26	オオジュリン													-63 XII.16	-63 XII.21
	*27	オオヒバリ				不					明					
	28	ヒバリ													-63 III.20	-62 XI.23
	29	ハマヒバリ													-63 XI.23	
	30	ビンズイ													-62 IX.19	-65 IV.29
	31	タヒバリ													-64 IX.28	-62 III.6

		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
エ	32	ホオジロハクセキレイ													-63 II. 6	-63 IV. 29
	33	ハクセキレイ													-63 XII. 12	-65 V. 5
	34	セグロセキレイ													-62 XII. 16	-67 IV. 26
	35	キセキレイ														
	36	イイジマメジロ														
	37	シジュウカラ														
	38	ツシマヤマガラ														
	39	コ ガ ラ													-62 II. 11	-63 XI. 8
	40	ツシマヒガラ														
	41	チョウセンエナガ														
ン	42	オオカラモズ													-64 V. 5	-64 V. 8
	43	モ ズ														
	44	チ ゴ モ ズ													-64 IV. 12	-63 IX. 26
	45	ア カ モ ズ													-63 IV. 21	-62 IX. 8
	46	キレンジャク													-66 IV. 20	-66 V. 16
	47	ヒレンジャク													-66 II. 24	-66 V. 16
	* 48	エゾヒヨドリ														
	49	ヒ ヨ ド リ														
	50	サンジョウクイ													-63 IV. 23	-62 IX. 16
	51	サンコウチョウ													-64 IV. 26	-63 X. 21
ジ	52	コサメビタキ													-66 IV. 11	-62 X. 18
	53	エゾビタキ													-62 V. 2	-63 X. 23
	54	サメビタキ													-64 IV. 29	-62 X. 6
	55	ム ギ マ キ													-63 IV. 21	-62 X. 9
	56	キ ビ タ キ													-65 III. 3	-62 X. 7
	57	オ オ ル リ													-63 IV. 22	-64 X. 13
	58	キクイタダキ													-67 X. 15	-66 IV. 13
	59	エゾムシクイ													-63 IV. 23	-63 IX. 18
	60	コムシクイ													-66 VI. 14	-66 VI. 8
	61	メボソムシクイ													-65 IV. 28	-63 X. 5
ク	62	センダイムシクイ													-63 IV. 23	-65 X. 11
	63	ウ ギ イ ス														
	64	チョウセンヤブサメ													-64 IV. 6	-66 XII. 26
	65	エゾセンニュウ													-64 VI. 2	-63 VI. 10

		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
エ	66	オオヨシキリ													-64 V. 4	-64 X. 5
	67	コヨシキリ													-64 VI. 5	-62 X. 7
	* 68	セ ツ カ	不 明													
	69	トラツグミ													-62 III. 26	-63 X. 4
	70	マミジロ													-64 V. 6	-64 IX. 28
	71	クロツグミ													-64 IV. 21	-63 IX. 26
	72	シロハラ													-66 X. 3	-66 V. 31
	73	マミチャジナイ													-61 X. 5	—
	74	アカハラ													-66 III. 8	-62 X. 3
	75	ハチジョウツグミ	不 明													
ジ	76	ツグミ													-63 IX. 26	-64 III. 23
	77	イソヒヨドリ														
	78	ノビタキ													-64 III. 26	-62 X. 30
	79	ジョウビタキ													-62 X. 8	-66 III. 13
ヤ	80	ルリビタキ													-63 I. 4	-65 XII. 28
	81	ノゴマ													-65 III. 中	-64 XII. 23
	* 82	コマドリ	不 明													
	83	コルリ													-64 IV. 3	-64 IV. 10
ク	84	ツシマミソザイ														
	85	ツバメ													-62 II. 20	-62 XI. 20
	86	コシアカツバメ													-62 III. 10	-64 XI. 3
	87	イワツバメ													-63 VI. 18	-63 VII. 8
	88	ショウドウツバメ													-63 V. 21	-66 V. 29
	89	ヤイロチョウ													-63 V. 6	-64 X. 15
	メ 目	90	アマツバメ													-64 V. 3
91		ハリオアマツバメ													-64 III. 9	-65 XI. 10
カ 目	92	ヨタカ													-62 VII. 13	-62 IX. 24
シ 目	93	ヤツガシラ													-63 IV. 3	-63 IV. 9
フ 目	94	ブッポウソウ													-63 V. 5	-63 IX. 25
ヒ 目	95	ヤマセミ														
	96	カワセミ														
	* 97	ヤマショウビン	不 明													
	98	アカショウビン													-63 V. 28	-65 X. 3
キ 目	99	アカゲラ														

		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
キ ツ ツ キ 目	100	ツシマコゲラ														
	*101	キ タ タ キ	不 明													
	102	ア リ ス イ													-63 X.24	-61 XII.18
ホ ト ト ギ ス 目	103	カ ッ コ ウ													-64 V.6	-64 X.21
	104	ツ ツ ド リ													-61 V.5	-63 X.19
	105	ホ ト ト ギ ス													-62 IV.9	-63 XI.5
	106	ジュウイチ													-67 V.26	—
フ ク ロ ウ 目	107	オオコノハズク														
	108	コノハズク													-66 V.27	-67 VIII.24
	109	アオバズク													-63 V.12	-64 IX.26
	*110	キュウシュウ フクロウ	不 明													
ワ シ タ カ メ 目	111	ハ ヤ ブ サ													-65 IX.11	-61 IV.10
	112	シロハヤブサ													-63 XII.25	—
	*113	コチョウゲン ボウ	不 明													
	114	チョウゲンボウ													-62 IX.9	-62 IV.4
	115	イヌワシ													-62 IX.16	-63 III.28
	116	オオノスリ													-62 I.2	-62 I.6
	117	ノ ス リ														
	118	ケアシノスリ													-63 I.6	-66 II.16
	119	ク マ タ カ														
	120	ハイイロチョ ウヒ													-62 IX.26	-64 II.27
	121	オ オ タ カ														
	122	ハ イ タ カ													-63 IX.29	-63 II.11
	123	ツ ミ													-65 XII.27	-66 X.23
	124	ト ビ														
	125	オジロワシ													-62 IX.19	-64 III.30
	126	オ オ ワ シ													-61 IX.20	?
	127	サ シ バ													-62 IV.2	-62 X.28
	128	ミ サ ゴ														
コ ウ サ ギ 目	*129	コウノトリ	不 明													
	*130	ト キ	不 明													
	131	ア オ サ ギ														
	132	チュウダイサ ギ													-62 III.26	-62 VII.25
	133	チュウサギ													-62 III.26	-63 IX.24

		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
コ ウ サ ギ 目	134	コ サ ギ													-62 I.12	-64 X.
	135	カラシラサギ				—									-63 XI.23	-64 XII.26
	136	ク ロ サ ギ														
	137	ア マ サ ギ													-63 IV.5	-63 IX.28
	138	サ サ ゴ イ													-63 VI.6	-63 IX.27
	139	ゴ イ サ ギ														
	140	ミ ゾ ゴ イ													-63 III.17	-64 XI.26
ガ ン カ モ 目	141	オオヨシゴイ													-64 IV.27	-64 IX.27
	142	コ ク ガ ン	—											—	-62 II.7	-64 XII.14
	143	マ ガ ン													-63 II.1	-64 III.15
	144	ヒ シ ク イ													-64 II.3	-66 II.26
	*145	オオハクチョウ				不					明					
	146	コ ガ モ													-61 IX.29	-62 III.27
	147	トモエガモ													-63 IX.29	-66 IV.4
	148	ヨ シ ガ モ													-66 XII.26	-67 III.21
	149	マ ガ モ													-61 IX.28	-66 V.6
	150	カ ル ガ モ													-62 IX.24	-66 VI.5
	151	オナガガモ													-61 IX.21	-63 III.28
	*152	ヒドリガモ				不					明					
	153	ハシビロガモ													-62 IX.27	-64 III.16
	154	オ シ ド リ													-62 IX.27	-64 III.16
ゼ ン ボ ク 目	155	キンクロハジロ													-65 XII.1	-66 IV.5
	156	ス ズ ガ モ													-67 IX.19	-66 IV.5
	*157	ツノリガモ				不					明					
	158	ホオジロガモ													-64 X.16	-64 III.16
	159	ウミアイサ													-63 X.16	-66 III.22
	160	カ ワ ウ												—	-62 XII.28	—
	161	ウ ミ ウ													-61 IX.27	-66 VI.5
	162	ヒ メ ウ	—												-62 I.3	—
	*163	ガランチョウ				不					明					
	164	ヒメクロウミツバメ				不					明					
	165	オナガミズナギドリ														
	166	オオミズナギドリ														
	*167	アホオドリ				不					明					

へい死鳥拾得 (1962. I. 15)

		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
ア 目	168	カンムリカイ ツブリ	_____												-63 I. 3	-66 III. 8
	169	アカエリカイ ツブリ	_____										_____		-63 XI. 26	-66 II. 24
	170	ミミカイツブ リ	_____												-62 I. 2	-66 III. 17
	171	ハジロカイツ ブリ	_____												-62 I. 2	-66 II. 11
	172	カイ ツブリ	_____													
	173	オ オ ハ ム											_____		-64 X. 29	_____
	174	ア ビ	_____												-62 I. 2	-66 IV. 10
ハ 目	175	カラスバト	_____													
	176	キ ジ バ ト	_____													
	177	ア オ バ ト												—	-65 VI. 29	-62 XII. 16
シ 目	178	アカエリヒレ アシシギ									—				-62 VIII. 29	-63 IX. 4
	179	ク サ シ ギ									—				-64 V. 4	-63 IX. 5
	180	タカブシギ													-62 V. 19	-64 IX. 15
	181	キアシシギ													-63 V. 6	-62 V. 19
	182	イ ソ シ ギ	_____													
	183	ツ ル シ ギ													-63 VII. 14	?
	184	アオアシシギ													-66 III. 27	-61 X. 15
	185	ソリハシシギ													-64 V. 3	-64 X. 18
	186	キョウジョウ シギ													-64 IV. 20	-63 X. 23
	187	ダイシヤクシ ギ													-64 IX. 1	?
	188	ホオロワシギ													-65 IV. 10	-64 IX. 30
	189	チュウシャン ギ													-64 IV. 4	-64 IX. 4
	190	オ バ シ ギ													-64 IV. 26	?
	191	ヤ マ シ ギ	_____													
	192	ア オ シ ギ													-61 IX. 15	-63 XII. 28
	193	タ シ ギ													-63 X. 3	-64 XI. 23
	194	チュウジシギ													-61 VI. 3	-62 IX. 25
	195	メダイチドリ													-62 IV. 23	-63 X. 5
	196	コ チ ド リ	_____												-65 II. 6	-63 VIII. 17
	197	タ ゲ リ	—												-65 I. 31	?
メカ 目モ	198	ケ リ													-66 IV. 19	-65 V. 31
	199	ミヤコドリ													-64 IV. 25	-63 XII. 29
	200	ツバメチドリ													-65 VI. 13	-65 VI. 21
	201	ミツユビカモ メ	_____												-61 XII. 6	-62 III. 13

	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
カ モ メ 目	202	セグロカモメ	_____											-61 X.28	-66 III.6
	203	オオセグロカ モメ	_____											-61 X.28	-16 III.6
	204	カ モ メ	_____											-61 IX.26	-66 VI.3
	205	ウ ミ ネ コ	_____												
	206	ユ リ カ モ メ	_____											-66 II.11	-66 IV.10
ウ ミ ス ズ メ 目	207	ウ ミ ス ズ メ	_____												
	208	カンムリウミ スズメ	_____											-63 IX.28	-64 IV.6
	209	ウ ト ウ	_____											-63 II.3	-64 III.14
ツ ル 目	210	ナ ベ ヅ ル	_____											-63 II.14	
	211	マ ナ ヅ ル	_____											-63 II.14	-64 X.20
	212	ク イ ナ												-61 X.27	
	213	ヒ ク イ ナ				_____								-63 IV.3	-62 IX.26
	214	バ ン				_____								-62 IV.3	-62 IX.17
	215	ウ ズ ラ	_____												
	216	コ ジ ュ ケ イ	_____												
	217	コ ウ ラ イ キ ジ	_____												

_____ 生息期, _____ 繁殖期, * 著者らは直接観察していない。

V 対馬産鳥類目録

Family 1. CORVIDAE カラス科

1. *Corvus leuallantii japonensis* BONAPARTE ハシブトガラス (じがらす)

厳原町, 1952, III, 9: 厳原中学保管, 剥製, 測定, 嘴峰70mm, 翼長370mm, 跗蹠60mm, 尾長250mm, 嘴高31mm。厳原小学校保管, 嘴峰63mm, 嘴高32mm, 翼長350mm, 跗蹠54mm, 尾長は不詳。

全島の村落付近, 農耕地, 山地に留鳥として, 周年生息し, 各地で普通に観察できる。後述のチョウセンハシブトガラスとの野外識別は困難であるが, 同時に観察し, 比較すると, 本種がやや大形である。山地の杉林, ケヤキ, エノキ, タブノキなどの喬木の高い枝上に営巣し, 繁殖する。

繁殖地: 佐護, 曾, 仁位, 厳原など各地。

2. *Corvus leuallantii mandshuricus* BUTURLIN チョウセンハシブトガラス

(わたりがらす)

豊玉村曾, 1966, V, 3: 採集, 測定, 嘴峰57mm, 嘴高26mm, 翼長320mm, 跗蹠50mm, 尾長185mm。同地で採集, 跗蹠52mm, 尾長175mmであった。いずれも畑に, おどしとしてつるしてあったので, 乾燥していた。全島各地の村落, 農耕地付近, 山地, 海岸に至るまで広く生息す

る。冬鳥として数十羽の群れで渡来し、農耕地、海岸の岩礁地帯までも採食に行く。2月ごろには、水田の水溜りに、ツシマアカガエルが産卵するが、それを採食しているのを観察することがある。留鳥として、周年生息するのは、山地の独立した喬木の股になった枝上に営巣、繁殖することがある。(豊玉村曾の高こぶし山, 1965, V, 26: 観察)

繁殖地: 曾, 唐州。

3. *Corvus corone orientalis* EVERSMAN ハシボソガラス

厳原町, 厳原中学校保管, 1952, III, 10: 採集, 測定, 嘴峰50mm, 嘴高21mm, 翼長330mm, 跗蹠58mm, 尾長195mm, 全島各地の村落, 農耕地付近から山地に至るまで生息するが, 人家付近に多い。しかし, この鳥はあまり多くない。喬木樹枝上に営巣し, 繁殖している。留鳥。

繁殖地: 佐護, 御岳山麓, 佐須奈など各地。

4. *Corvus frugilegus pastinator* GOULD ミヤマガラス (ちょうせんがらす, せんばがらす)

上県町佐護, 1964, II, 7: 採集, 測定。嘴峰48mm, 翼長285mm, 跗蹠50mm, 尾長160mm。厳原町, 厳原小学校保管, 嘴峰50mm, 翼長280mm, 跗蹠54mm, 尾長148mm, 本種は前種などより小形で, 嘴も細く, 嘴の周囲に羽毛を欠き, 皮膚を裸出する。本島には, 冬鳥として渡来し, 80~300羽もの集団で, 全島各地の村落・人家付近に生息する。また, 川口や海岸の浅瀬, 農耕地で, 集団で採食しているのを観察することがある。また, 夕方には, 大群をつくることがある。本島へは, 旅鳥として飛来し, たちまちに通過する群れもある。

1965年には, 佐護で6羽, 美津島で16羽, この二群の越夏を観察した。

5. *Pica pica japonica* TEMMINCK & SCHLEGEL カササギ

対馬産, 対馬高校保管, 1947年以前に捕獲し, 剥製標本, 測定, 嘴峰34mm, 翼長207mm, 跗蹠49mm, 尾長257mm。この他, 厳原小学校理科室に, 剥製標本が3個体あるので, 産地, 採集年月日は不詳であるが, 記録しておくことにする。

嘴 峰	3 3	mm	翼 長	1 9 3	mm	跗 蹠	4 8	mm
"	3 3	mm	"	2 0 9	mm	"	4 4	mm
"	3 0	mm	"	1 9 8	mm	"	4 4	mm

尾長はいずれも尾羽が抜けていたために不明。

著者等は, いまだかつて本種を, 対馬で観察したことはないが, しかし, 土地の人の話によると, 上県町西津屋の人家付近のイチョウの喬木に営巣・繁殖したことがあるという。また, たまにはカラスの群れの中に混って稀ではあるが渡来するという。

6. *Garrulus glandarius namiyei* KURODA ツシマカケス (がしがし)

上県町佐護, 1964, II, 3: 採集, 同地の緒方義雄氏宅のネコが捕えた。測定, 嘴峰30mm, 翼長175mm, 跗蹠45mm, 尾長155mm。厳原中学保管, 1948, II: 採集, 剥製標本測定, 嘴峰29mm, 翼長180mm, 跗蹠41mm, 尾長150mm。他に厳原小学校にも2羽の標本がある。また, 佐護中学校に1羽の標本がある。

留鳥として全島の各地、村落付近の雑木林から山地の落葉常緑広葉樹林、および針葉混交林に至るまで広く生息する。本種は他の鳥類、例えば、コウライキジ、カラスなどの鳴き真似をすることがある。人家付近の針葉樹（モミ、カヤなど）の独立木の枝上に営巣し、繁殖する。また森林のスダシイ、カシに営巣することもある。

繁殖地：比田勝、佐護、御岳、曾、佐保、久田など各地。

Family 2. ORIOLIDAE コウライウグイス科

7. *Oriolus chinensis diffusus* SHARPE コウライウグイス

豊玉村千尋藻, 1967, VI, 26: 採集, 測定, 嘴峰32mm, 翼長153mm, 跗蹠23mm, 尾長98mm。本島に約7年間いて本種を観察したのは、これが始めてであった。本島には、旅鳥として渡来するものと思われる。小林図鑑、清棲図鑑にも記録があり、春季と秋季に渡来したように記してある。最近、山階鳥類研究所の蓮尾嘉彪は、山口県の角島で標識調査中に捕獲した。その記録は次の通り。

(1965, V, 27: 1, ♂, 1966, V, 9: 1, ♂の計2羽)。

カ、ア、ヴォロビョラによると、ウスリー地方に普通営巣する鳥である。ここでは、河川沿の盆地、河口付近、小山の斜面を覆うナラ林のような、明るい広葉樹林に生息すると述べている。本島への渡来数は、前記の記録だけで、なかなか観察することができない。

Family 3. PLOCEIDAE キンパラ科

8. *Passer montanus saturatus* STEJNEGER スズメ (いえすずめ)

上県町佐護, 1961, XII, 27: ♂採集, 測定, 嘴峰13mm, 翼長73mm, 跗蹠17mm, 尾長53mm。全島に分布、村落、農耕地及び人家付近に多数生息し、普通に観察できる。人家の軒に営巣することが多いが、稀には樹洞を利用する個体もある。

繁殖地：全島各地。

Family 4. FRINGILLIDAE アトリ科

9. *Coccothraustes coccothraustes japonicus* TEMMINCK & SCHLEGEL シメ (まめまわし)

冬鳥として上県町佐護, 1961, XI, 16: 13羽の1群および他に2群8羽。美津島町難知および豊玉村曾, 千尋藻間, 1966, XI, 6: 16羽1群, 豊玉村糠, 1966, IV, 29: 16羽, 6羽, 13羽の3群など各地の落葉広葉樹林中のエノキ、ムクノキなどの果実を採食しているのを連日観察する。渡去時期の4月下旬には、地上に降りて採食している。生息数は割合に少ない。

10. *Eophona personata personata* (TEMMINCK & SCHLEGEL) イカル

旅鳥? 冬鳥か。上県町佐護友谷, 1963, II, 17: 6羽一群, 3~5日間観察。豊玉村千尋藻, 1966, III, 2: 3羽の群れなどが村落付近のエノキの果実を採食するのを観察したが個体数は少ない。

11. *Eophona migratoria migratoria* HARTERT コイカル

上県町佐護友谷, 1963, III, 10: ♀, 測定, 嘴峰19mm, 翼長101mm, 跗蹠20mm 尾長55mm, 上

県町佐護恵古, 1963, II, 27: ♂, 嘴峰19mm, 翼長97mm, 跗蹠23mm, 尾長71mmを採集, 冬鳥として渡来するが, 同町友谷で落葉広葉樹林で採食中, 1962, VIII, 3: 3羽の1群を観察したことがある。冬期には, エノキ, ハルニレ, ムクノキなどで採食中の群れをよくみかけるが, 個体数は少なくない。

12. *Chloris sinica* Kawaraha (TEMMINCK) オオカワラヒワ

堀川安市編(長崎県脊椎動物目録, 1963)に記録されているが, 著者らはいまだ観察していない。

13. *Chloris sinica minor* (TEMMINCK & SCHLEGEL) コカワラヒワ

豊玉村千尋藻, 1966, III, 26, 測定, 嘴峰10mm, 翼長80mm, 跗蹠13mm, 尾長52mm, 尾羽数12枚, 全島各地の村落・山地に広く生息する。この鳥の特徴を観察すると, チョウセンカワラヒワ, *C. sinica ussuriensis* HARTERT. 1903に類似していた。スギ樹枝上に営巣。

繁殖地: 全島各地。

14. *Carduelis spinus* (LINNE) マヒワ(ひわ)

冬鳥として全島各地の村落付近, 農耕地, 林縁などに生息し, 特に1~2月頃には群れて採食しているのを観察する。しかし, 渡来数は少ないようである。

15. *Pyrrhula pyrrhula griseiventris* LAFRESNAYE ウソ

冬鳥として12月頃までには渡来し, 上県町佐護井口部落付近の山地, 常緑・落葉広葉樹林内に生息する。2月頃には小群で採食するが, 個体数はきわめて少ない。

16. *Pyrrhula pyrrhula rosacea* SEEBOHM アカウソ

清棲図鑑に記載されていて, 1891, XIIの記録になっているが, 著者らはいまだ観察していない。対馬で「ひうそ」という名称をよく聞かすが, 本種のことではなかろうかと考える。

17. *Fringilla montifringilla* LINNE アトリ

清棲図鑑および鴨川対馬野鳥目録(1965)に倉成栄吉氏が冬鳥として記録しているが, 著者らはいまだ観察していない。

18. *Emberiza elegans elegans* TEMMINCK ミヤマホオジロ(やますずめ)

この鳥は, 対馬には冬鳥として, 10月下旬頃から渡来し, 全島各地の農耕地付近, その林縁などに小群で冬季間を生活し, 翌年4月上旬から5月上旬には渡去する。しかし, 本種の数羽が1966年に豊玉村曾, 千尋藻の雑木林で越冬し, 更に1967年5月21日には同地で, 巣立ちしたばかりの幼鳥5羽を観察し, 足環をつけることができた。

次の通りである。写真参照。

		嘴峰	翼長	跗蹠	尾長		
JAPAN	F-1209	7mm	38mm	19mm	9mm	幼	鳥
"	F-1210	8	38	18	9	"	
"	F-1211	8	38	18	8	"	
"	F-1212	8	38	18.5	11	"	
"	F-1208	11	77	18.5	78	上記の♂親	

越夏地の生息環境は、豊玉村千尋藻の山地で人里近いところであって、落葉、常緑広葉樹の二次林で、コナラ、クヌギ、ノグルミ、ケヤキ、エノキ、クス、スダシイ、ヤブツバキ、カゴノキ、アカガシなどの茂る樹林である。繁殖地は同地で、伐採後約5年ほど経過した林であって、やぶのような状態になっていた。おそらくその付近に営巣したものだろう。この繁殖記録は国内の記録としては、はじめてだろうと山階鳥類研究所の蓮尾嘉彪氏は言っている。もう1つの夏の記録は、厳原町下原の中村雄久君が1965年7月28日に飼育中の♂鳥を観察したことがある。嘴峰10mm、翼長73mm、跗蹠19mm、尾長67mmであった。

繁殖地：豊玉村千尋藻の古千尋藻部落の奥の農耕地付近。

19. *Emberiza spodocephala personata* TEMMINCK アオジ

全島各地の村落付近の灌木林の茂みの中、林縁、山地、落葉広葉樹林などに冬鳥として渡来する普通の種である。

20. *Emberiza sulphurata* TEMMINCK & SCHLEGEL ノジコ

全島の山地、林縁、竹藪などに、また上県町佐護友谷、1962, XI, 1:4羽、1963, XII, 1:3羽、同町恵古、1963, III, 11:2羽、他に上県町佐須奈、上対馬町豊で各3羽、厳原町小茂田、瀬、久和で3羽、計18羽を観察した。

21. *Emberiza cioides ijimae* STEJNEGER イイジマホオジロ (やますずめ)

上県町佐護椋梨、1963, XII, 採集

番 号	性 別	嘴 峰	翼 長	跗 蹠	尾 長
1	♀	12mm	67mm	18mm	69mm
2	♂	11	70	18	67
3	♂	11	63	19	68
4	♂	11	71	18	65
5	♂	11	73	20	69
6	♂	11	71	20	67
7	♂	11	70	19	66
8	♂	10.5	72	18	71

No. 8は上県町佐護恵古、1962, III, 28:採集、他全島各地の村落付近、農耕地、林縁および雑木林の茂みの中などに周年生息し、対馬に生息する鳥種のうち最も多い。雑木林床で営巣繁殖する。全島各地。

22. *Emberiza rustica latifascia* PORTENKO カシラダカ

冬鳥として全島各地の山地、落葉広葉樹林、平地の雑木林、林縁から農耕地まで広く生息し、冬期には普通に観察することができる。

23. *Emberiza variabilis* TEMMINCK クロジ

全島の各地、山地の雑木林、時に落葉広葉樹林や灌木などのブッシュ地帯に小群をつくって

生息する。佐護の天狗山の南西斜面の落葉常緑広葉樹林内には、特に多く生息することを、1962～4年にわたり観察した。

24. *Emberiza tristrami* SWINHOE シロハラホオジロ

上県町佐護井口部落の南西部に位置する天狗山山麓の林縁、竹藪、杉の植林3年目の林などに冬期、6～16羽の小群をつくり生息する。1961～4年まで同地で観察したが、標本をこれまでに得ることができなかったため、前回、1965年の目録には記載していないが、以後明確になったので、ここに記録する。また蓮尾嘉彪氏は、角島の鳥類(1966)に次の様に記録している。1966, IV, 26, 1966, V, 4, 1966, V, 6: 各々1羽を捕獲している。山口県角島では、4～5月に飛来しているが、対馬では12月中旬頃渡来し、2月頃は佐護井口部落付近から姿を見せなくなるようである。小群で農耕地に採食に出ているが、人に気が付くと素早く林内に逃げ込む。

25. *Emberiza yessoënsis yessoënsis* (SWINHOE) コジュリン

豊玉村唐州, 1966, VII, 9: 5羽を農耕地付近で観察した。また同村千尋藻付近の林縁で、1967, III, 28: 1羽を捕獲、測定、嘴峰11mm, 翼長65mm, 跗蹠20mm, 尾長56mm, その後、乙宮校への通勤の途中、農耕地付近の林縁などで、ミヤマホオジロ、イイジマホオジロとの混群で本種を連日観察することができたが、IV, 16, 3羽が終認となった。本島には渡り時季に飛来する。これらのことを明らかにするにはこれからの調査が必要であろう。九州本土での記録がないだけに分布上たいへん興味ある問題である。

26. *Emberiza schoeniclus nortoniensis* GMELIN オオジュリン

上県町佐護井口浜の平地、林縁、農耕地の荒地で1963, XII, 16: 6～13羽の小群を3日間観察した。本島への渡来は、渡りの途中一時飛来するものであろうか。また冬鳥であるか明確でない。今後の調査が必要である。

Family 5. ALAUDIDAE ヒバリ科

27. *Alauda arvensis pekinensis* SWINHOE オオヒバリ

厳原中学保管、厳原町, 1950, X, 5: 採集、測定、嘴峰12mm, 翼長103mm, 跗蹠25mm, 尾長63mmがあるが、清棲図鑑、宇田川図鑑などの測定には達していないが、体の上面、下面の特徴は本種に近いので記録することにした。

28. *Alauda arvensis japonica* TEMMINCK & SCHLEGEL ヒバリ

豊玉村仁位, 1962, XI, 23: 10数羽の一群, 1963, III, 20, V, 20: 小群が農耕地に生息していた。分布は局地的であり、その個体数も少ない。本島には渡り鳥として稀に渡来するものと思われる。また、清棲図鑑にも記載されていることから考えても以前から渡り鳥として飛来していたのではなかろうか。

29. *Eremophila alpestris Flava* (GMELIN) ハマヒバリ

上県町井口浜, 1963, XI, 23: 13羽観察、海岸付近の農耕地、林縁等に生息していた。その他の土地にも渡来するらしい。生息は局地的で、個体数も少ない。清棲図鑑によると、上県町

仁田, 1920, X, の記録がある。

Family 6. MOTACILLIDAE セキレイ科

30. *Anthus hodgsoni hodgsoni* RICHMOND ビンズイ

冬鳥として全島各地の農耕地に生息する。上県町佐護, 1962, VII, 20, VI, 15: 6羽の一群, 1963, VIII, 10: 14羽の一群など一部が滞留し, 越冬している。冬期には普通に観察できる種である。

31. *Anthus spinoletta japonica* TEMMINCK & SCHLEGEL タヒバリ

上県町佐護, 仁田, 豊玉村仁位, 曾, 上対馬町大浦, 美津島町難知などの農耕地に冬鳥として渡来, 群れをなして生息する。生息範囲は局地的ではあるが, 普通に観察できる。

32. *Motacilla alba leucopsis* GOULD ホオジロハクセキレイ

旅鳥として上県町佐護の佐護川, 豊玉村仁位の仁位川, 豊玉村曾川の川原, その周辺の耕地, および佐護海岸の岩礁地帯, 千俵海岸の浅瀬などにハクセキレイの混群で, 毎年飛来するが, その後は韓国方面へ渡るものと考え。大群の記録だけをあげると, 上県町佐護, 1963, II, 6: 60数羽, 1963, IV, 29: 26羽, 豊玉村曾, 1967, IV, 13: 39羽以上の群などが通過する。

33. *Motacilla alba lugens* GLOGER ハクセキレイ

全島各地の海岸, 砂浜, 河川の砂礫地や村落の農耕地などの水辺付近に冬鳥として渡来し, 冬季間は小群で生息することが多い。厳原町小茂田の耕起された水田に, 1965, V, 5: 1羽を観察した他, 夏季にも観察できた。

34. *Motacilla grandis* SHARPE セグロセキレイ

冬鳥として上県町の佐護川, 佐須奈の川, 豊玉村の仁位川などの川原, 川口, 海岸の砂浜, 農耕地などの水辺付近に飛来するが, 個体数は少ない。1967, IV, 26には曾川で3羽を観察した。

35. *Motacilla cinerea caspica* (S. G. GMELIN) キセキレイ

全島各地の村落付近から海岸の砂浜, 岩礁, 浅瀬, 河川の川原, 農耕地, 山地の谷川や山道などいたるところに生息する。毎年9月中旬頃には4~8羽の小群で採食しているのを観察することがある。夏季には山地の谷川で観察することが多いが, 個体数はその頃は非常に少ない。留鳥ではあろうが秋季には多少渡来するのではなかろうか。

Family 7. ZOSTEROPIDAE メジロ科

36. *Zosterops palpebrosa ijimae* KURODA イイジマメジロ

全島各地の海岸林から村落, 山地まで広く留鳥として生息する。各地の雑木林で繁殖。

繁殖地: 上県町, 豊玉村, 厳原町。

性 別	嘴 峰	翼 長	跗 蹠	尾 長	測定年月日	場 所	足環番号
♂	13mm	58mm	18mm	43mm	1963. II .21	上 県 町 佐 護	—
♂	14	62	19	45	1965. VII .12	豊玉村位ノ端	—
♀	14	59	18	44	1966. IV .8	同 上	—
不 明	14	57	16	44	1967. VI .3	豊 玉 村 曾	F—1222
不 明	13	57	17	45	1967. VI .4	同 上	F—1223

Family 8. PARIDAE シジュウカラ科

37. *Parus major minor* TEMMINCK & SCHLEGEL シジュウカラ (ししゅんがら)

全島各地の村落付近から山地の雑木林に至るまで広く分布し、留鳥として生息する。冬季は特に人家付近に多くなるようである。

性 別	嘴 峰	翼 長	跗 蹠	尾 長	測定年月日	場 所	足環番号
不 明	10mm	77mm	17mm	67mm	1967. V .28	豊 玉 村 曾	F—1220
♂	11	64	18	58	1962. III .24	上 県 町 佐 護	—
♀	10	65	19	59	1965. V .5	豊 玉 村 曾	—
不 明	11	66	17	59	1967. VI .11	同 上	F—1232
〃	11	70	18	65	1967. VIII .19	同 上	F—1289

繁殖地：上対馬町比田勝，豊，大浦，上県町，佐須奈，佐護，志多留，豊玉村曾，千尋藻，佐保，塩浜，厳原町小茂田など各地で繁殖している。乙宮中学校生物クラブで、常緑，落葉広葉樹林の二次林に巣箱を架設（1965）したところ，87%の巣箱を利用し，営巣した。

38. *Parus varius iijimae* (KURODA) ツシマヤマガラ

全島各地の村落付近の常緑，落葉広葉樹の雑木林などから，山地に広く生息，留鳥。前種に比較すると生息個体数は各地とも少ない。

性 別	嘴 峰	翼 長	跗 蹠	尾 長	測定年月日	場 所	足環番号
♂	13mm	75mm	20mm	60mm	1963. II .20	上 県 町 佐 護	—
不 明	13	63	16	51	1967. V .20	豊玉村千尋藻	F—1204
不 明	13	76	16	77	1967. V .20	同 上	F—1205
幼 鳥	11	59	16	37	1967. V .20	同 上	F—1206

ヤマガラより下面の羽色が濃く，上面はわずかに暗緑色をおびる。

繁殖地：上県町佐護，御岳，豊玉村曾，千尋藻，厳原町厳原の有明山。

39. *Parus atricapillus restrictus* HELLMAYR コガラ

上県町佐護深山，1964，II，2：♂採集，測定，嘴峰9mm，翼長68mm，跗蹠17mm，尾長

56mm, 佐護友谷, 御岳などに旅鳥として飛来したが, その数は少なくない。

40. *Parus ater teraokai* (KURODA) ツシミヒガラ

上県町佐護, 1963, III, 30: 1羽捕獲, 測定, 嘴峰12mm, 翼長61mm, 跗蹠16mm, 尾長46mm。本種はヒガラより嘴峰がやや大きく, 背面が多少濃い色であるように感じる。本島には, 留鳥として上県町佐護, 仁田, 御岳, 峯村大星山, 美津島町白岳, 厳原町竜良山などの常緑, 落葉広葉樹雑木林に生息する。御岳には多いが, 他の山地では少ないようである。平地には稀で, ツシマコゲラの古い巣穴を利用していることが多いが, また時には御岳山頂付近にある小屋の軒に営巣しているのを発見したことがある。

繁殖地: 上県町御岳, 厳原町竜良山など。

41. *Aegithalos caudatus magnus* (CLARK) チョウセンエナガ

本種は, 本島には留鳥として周年生息し, 繁殖する。

性別	嘴峰	翼長	跗蹠	尾長	測定年月日	場所	足環番号
不明	8mm	68mm	18mm	92mm	1966. II. 16	豊玉村千尋藻	—
不明	9	69	18	95	1967. X. 10	同上	E-9902
不明	8	70	17	93	1967. X. 10	同上	E-9903
不明	9	68	19	96	1967. X. 10	同上	E-9904

エナガより体がやや大形で尾が長く, 胸に淡黒褐色の斑が横帯状にある。この鳥は全島各地の落葉, 常緑広葉樹の茂る山地, コナラを優占種とする群落の二次林や, 常落混交林などに多い。地上1m位の樹枝上や竹藪などに営巣, 繁殖する。非繁殖期には群れる。

繁殖地: 上県町御岳, 豊玉村曾, 位ノ端, 千尋藻, 佐保, 仰麦, 塩浜, 厳原町上見坂峠付近。

Family 9. LANIIDAE モズ科

42. *Lanius sphenocercus sphenocercus* CABANIS オオカラモズ

厳原小保管標本, 測定, 嘴峰16mm, 翼長120mm, 跗蹠33mm, 尾長は欠損のため測定していない。この標本が本島産のものかどうか, また採集年月日もラベルが貼付していないため判明しないことは誠に残念である。上県町佐護川沿の竹藪で採食中の本種2羽を1964, V, 5: Pm 5時40分に目撃したが, その後3日目の午後は確認できなかった。その3日間は, 川沿の農耕地およびその付近の林縁で2羽で生活していた。その近くにモズが営巣していたが, そのモズの番に攻撃され, 追っばらわれているのを観察した。この一回限りの観察で, 後はチャンスを得てない。

清棲図鑑, 小林図鑑には, 対馬で採集された記録がある。本邦には迷鳥として渡来するにすぎないと記してあるが, 本島にも迷鳥としてたまたま飛来しているのではなからうかとも考えるが, まだその後の確証は得ていない。

43. *Lanius bucephalus bucephalus* TEMMINCK & SCHLEGEL モズ

本島には、留鳥として全島各地の村落付近から山地、谷間の農耕地、またその林縁に生息する。

性 別	嘴 峰	翼 長	跗 蹠	尾 長	測定年月日	場 所	足環番号
♂	13mm	85mm	24mm	95mm	1963.IV.21	上 県 町 佐 護	—
♂	16	82	26	91	1967.VI.18	豊玉村千尋藻	E-6551

秋季頃から農耕地付近に多く姿を見せるようになり、高なきをして生息領域を示す誇示行動が目立つ。雑木林や竹藪の枝上に営巣繁殖している。

繁殖地：上県町佐護、豊玉村曾、千尋藻、位ノ端、仁位など各地。

44. *Lanius tigrinus* DRAPIEZ チゴモズ

上県町佐護、豊玉村貝口、加藤などの農耕地付近、竹藪、林縁などに夏鳥として4月中旬頃渡来し、単独または、2羽で生活するが、渡来数は非常に少なく稀に観察できる程度である。佐護の棕梨部落付近で餌を運んでいるのを目撃したことがある。繁殖の時期であったので巣を探したが発見することができなかった。今後調査を行なう必要がある。

45. *Lanius cristatus superciliosus* LATHAM アカモズ

豊玉村曾、1965, VI, 25: ♂, 飼育メジロを攻撃にきた本種が捕獲された。測定、嘴峰18mm, 翼長95mm, 跗蹠23mm, 尾長85mm, 上県町佐護川沿の農耕地付近、竹藪、林縁などに夏鳥として渡来し、生息するが、生息数は少ない。佐護の深山部落の佐護川縁で営巣、繁殖(1964)したことがある。

Family 10. BOMBYCILLIDAE レンジャク科

46. *Bombycilla garrulus Centralasiae* POLJAKOV キレンジャク

日本野鳥の会が昭和40年秋から41年春にかけて渡来したレンジャク類についての情報をまとめた。(同会誌 Vol. 31. No. 6. p. 55 鴨川), 豊玉村曾、千尋藻、1966, IV, 20: 76羽, 同村田の浜、1966, V, 1: 3羽, 同村曾、1966, V, 16: 8羽の観察をした。

村落付近の林縁、神社などの孤立木、また人家の庭先のエノキ、ムクノキなどの喬木などに飛来する。本島には旅鳥として渡りの季節に渡来し生息するにすぎない。渡来数は少ないようである。

47. *Bombycilla japonica* (SIEBOLD) ヒレンジャク

厳原小学校保管標本測定、嘴峰, 9mm, 翼長103mm, 跗蹠18mm, 尾長63mm, 産地は本島産のものであるか明確でない。前種と同様、同会誌に報告がある。豊玉村、1966, II, 24: 20羽, 同村同年II, 26: 20数羽, 同村同年V: 3羽の観察のほか上県町佐護、豊玉村田の浜、厳原などで観察したことがある。前種と同様な場所で混群の小群として生活することが多い。本島には渡りの季節に旅鳥として渡来するようであるが渡来数は多くないようである。

Family 11. PYCNONOTIDAE ヒヨドリ科

48. *Hypsipetes amaurotis hensoni* (STEJNEGER) エゾヒヨドリ

清棲図鑑(1966)によると1885年5月に対馬での採集記録がある。宇田川図鑑によるとヒヨドリとの違いは、次のような点である。嘴がやや細く、上面と腹側の色彩が淡いと述べてあるが、野外においてはこのような特徴の判別はなかなか困難である。それでまだ著者等は本種の生息を確認していない。今後捕獲調査する必要がある。

49. *Hypsipetes amaurotis amaurotis* (TEMMINCK) ヒヨドリ(ひよ)

本種は冬鳥として全島各地に普通の鳥であるが、また越夏し繁殖している個体も普通に観察することができる。秋季には上県町佐護の西海岸帯に大群で飛来するのを目撃したことがある。またそれに襲いかかるハヤブサを見ることもある。4月上旬頃には60~120またそれ以上の大群で、対馬海峡側(千尋藻)から朝鮮海峡(廻)へ、尾根の林冠部から林冠部へとかなりはげしい移動をするのを目撃することがしばしばある。

生息環境は、村落付近から農耕地、山地の落葉常緑広葉樹林などで、初春、餌が少なくなる頃には、畑の白菜など野菜類を採食するので、農家の人達にとっては甚だ迷惑なことがある。

性 別	嘴 峰	翼 長	跗 蹠	尾 長	測定年月日	場 所	足環番号
不 明	20mm	130mm	25mm	125mm	1965.XI.21	豊玉村 鍵川	—
不 明	22	120	20	111	1966.VIII	厳原中学標本	—
不 明	23	120	22	112	1967.VIII.8	豊玉村千尋藻	E—6552

繁殖地：上県町佐護、御岳、比田勝、豊、豊玉村千尋藻、曾、仁位、唐州など各地で繁殖している。

Family 12. CAMPEPHAGIDAE サンショウクイ科

50. *Pericrocotus roseus divaricatus* (RAFFLES) サンショウクイ

上県町中山、1962、VII、28、子供たちが死体をもってきた、その測定、嘴峰14mm、翼長98mm、跗蹠16mm、尾長99mmであった。本島には夏鳥として上県町の佐護、仁田などの平地、人家付近の林、山地の雑木林に生息するが稀に観察する程度である。しかし時には群れで生活しているのを目撃することもある。

Family 13. MUSCICAPIDAE ヒタキ科

51. *Terpsiphone atrocaudata atrocaudata* (EYTON) サンコウチョウ(おながどり)

本島には夏鳥として全島各地の村落付近から山地に至るまでの、常緑広葉樹や常緑落葉広葉樹の茂る薄暗い林や杉林などを好んで生活する。5月頃の渡り時期には特に個体数が著しく多い、おそらく渡りの途中立寄る個体があるものと考えられる。

性 別	嘴 峰	翼 長	跗 蹠	尾 長	測定年月日	場 所	足環番号
♀	15mm	84mm	13mm	91mm	1967. VI. 24	豊玉村和多都美	F—1249
♀	14	89	12	93	1967. VIII. 18	同 上	F—1262
♂	20	97	15	34.3	1961. VI. 23	上 県 町 佐 護	—
♂	15	90	14	20.9	1967. V. 28	豊 玉 村 曾	F—1218
♂	16	91	14	27.0	1967. V. 28	豊玉村千尋藻	F—1221

繁殖地：上県町佐護，仁田，佐須奈，上対馬町比田勝，豊玉村曾，千尋藻，仁位，貝口，塩浜，厳原町有明山麓，浅藻竜良山など各地の雑木林の枝上および，人家の庭先のビワの枝上などで繁殖している。

52. *Miscicapa latirostris latirostris* RAFFLES コサメビタキ

上県町御岳，厳原町の竜良山などの常緑落葉樹の茂る雑木林のしかも谷川付近に多く生息するが，また佐護の村落付近にも夏鳥として生息する，しかし生息個体数は少ない。豊玉村曾の睢鳩岳付近（1966）の雑木林の枝上に営巣繁殖したことがある。

53. *Miscicapa griseisticta* (SWINHOE) エゾビタキ

上県町佐護湊10，V，1962：♀を佐護の中学生在が拾ってきた。嘴峰9mm，翼長89mm，跗蹠15mm，尾長53mm。同町の千俵蒔山，佐護，御岳などの草原，厳原町小茂田などの林縁，草原，御岳の常緑，落葉，広葉，針葉混交林などに旅鳥として春秋季の渡りの途中年2回出現し生息するが，個体数はきわめて稀である。

54. *Muscicapa sibirica sibirica* GMELIN サメビタキ

上県町御岳，佐須奈，峯村大星山などの山麓，厳原町有明山，対馬林業指導所付近，日蔭などの雑木林中に夏鳥として渡来し生息する。個体数は少ないが珍しいほどでもない。繁殖している可能性はあるものと考えるがまだ確証を得てない。また5～10月には夏季より個体数が目立って多くなることから考えて旅鳥として渡りの途中に立寄っている個体も多数あるものと思う。

55. *Muscicapa mugimaki* TEMMINCK ムギマキ

上県町佐護友谷，23，IV，1962：♂が飼猫に捕えられた。測定，嘴峰9mm，翼長79mm，跗蹠15mm，尾長56mm。当地村落付近，例えば庭先の竹林の周辺，常緑，落葉，広葉樹の茂る雑木林などに旅鳥として，春，秋季の年2回出現する，渡りの季節には1週間前後連日のように本種を観察することがある。しかし多くても4～6羽の群で，単独または2羽で採食し生活していることが多い。本島での本種の観察記録は局地的で飛来数も少ない。

56. *Muscicapa narcissina narcissina* キビタキ

本島には夏鳥として上県町御岳，美津島町白岳，峯村大星山，厳原町有明山など山地の常緑広葉樹林および常緑落葉広葉樹林などに渡来し生息するが，御岳ではモミ，チョウセンヒメコマツなど針葉混交林の喬木の繁茂するところに多く，その生息数も最も多い。ここではモミの

樹洞に営巣繁殖している。渡来当時（1965，Ⅲ，3）厳原町小茂田部落のアブラナ畑など本種の移動している一群を観察したことがある。

57. *Muscicapa cyanomelana* *Cyanomelana* TEMMINCK オオルリ

本島には夏鳥として全島各地の村落付近の山地，例えば上県町佐護，佐須奈，上対馬町，比田勝，豊玉村曾，田の浜，仁位，厳原町豆酩瀬などの喬木の茂る林，杉林などに渡来し生息するほか，御岳，大星山，白岳，竜良山などには多く生息する。6月から7月頃には喬木の梢で囀る雄鳥を目撃することが多い。

性 別	嘴 峰	翼 長	跗 蹠	尾 長	測定年月日	場 所	足環番号
♂	11mm	91mm	13mm	62mm	1967.VIII.18	豊玉村和多都美	F—1271
♂	11	94	14	64	1967.VI.24	同 上	—
♀	12	88	15	59	1967.VIII.19	同 上	F—1272

繁殖地：佐護，仁位和多都美，御岳などで繁殖している。佐護では恵古の島本氏宅前の小川沿の杉の大木の根元に営巣したこともある。